

麦作情報 第 4 号

J A む な か た
北 筑 前 普 及 指 導 セ ン タ ー

◎気象概況（アメダス宗像より）

○播種後～生育期前半は暖冬傾向で、平年に比べ、平均気温は1.3℃高く、日照時間は12%長く、降水量は53%多くなっています。

平成28年11月21日～平成28年2月5日（75日間）の気象

	平均気温（℃）	日照時間（hr）	降水量（mm）
本年	8.3	298	290
平年比（差）	+1.3	112%	153%

今後の管理としては、下記のとおり、排水対策、雑草対策、追肥を中心に進めてください。

特に、早い時期に播種されたほ場については、生育が進んでいますので早目の雑草対策を行ってください。

1 排水対策

- ほ場が乾き次第、雑草防除を兼ねて土入れを行い、排水溝を作る。
- うね溝とまくら溝の連結、及び排水口の整備を徹底して、ほ場内の水がただちに流れ出るよう努めて下さい。（畝間に表面水が停滞しない状況をつくる）

2 土入れ

- 3月上旬頃までにできる限り行う。
- 土入れは麦踏み前に行い、麦踏み後、数日間は土入れを避ける。
- 土入れは排水対策の他、倒伏防止や雑草防除、過繁茂抑制に有効で、特に茎数の多いところは十分に行う。
- 追肥後に土入れを行うことで、肥料の効果を上げる。

3 麦踏み

- 茎立ち期前まで、土壌が乾燥している時に行う。
- 麦踏みは、分げつ促進、倒伏抑制、早期茎立の防止の効果があり、特に生育旺盛な場合に効果が高い。
- 節間が地上まで伸び、茎が折れるような場合は、減収するため作業を中止する。

4 雑草対策

● カラスノエンドウ・タデ、ヤエムグラなどの広葉雑草が多いほ場

【**アクチノール乳剤**】 ★ 薬量：100～200mL／10a

★ 希釈水量：70～100L／10a

(使用時期：穂ばらみ期まで)

☆ 草が大きくなると効果が劣るので、雑草生育初期までに散布する。

☆ 効果安定のため天候を考慮し、降雨前の散布は避ける。

☆ 雑草の茎葉全体に十分薬液がかかるように散布する。

※ハーモニー75DF水和剤は、茎立ち期以後には登録がないため、茎立後は使用しないでください。

5 小麦(チクゴイズミ)の穂肥 (2回目の追肥)

播種時期	施用時期	施肥量 (NK2号)
11月～ 12月中旬	2月下旬～ 3月上旬	15kg/10a

★降雨による肥料の流亡が考えられるので、葉色を観察して、追肥で調整してください。

★生育が旺盛な場合は、倒伏しやすくなるので、上記施用量より減らしてください。

★1回目の追肥に追肥一発肥料グッドIB506を施用した場合は、穂肥(2回目の追肥)は施用しません。

★播種が遅れたため、1回目の追肥を行っていないほ場では、早めに追肥を行ってください。なお、2回目の追肥については、生育状況を見ながら、減肥または省略してください。

※ビール大麦では追肥1回のみで穂肥(2回目の追肥)を施用しません。
追肥を行っていない場合は、早急に施用してください。

★農薬を正しく安全に使用しましょう！！

① 散布前に必ずラベルを確認

② 散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止を徹底

③ 散布後は必ず散布器具(タンク、ホース等)を洗浄

④ 防除履歴の正確な記帳